

**This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

**Defective images within this document are accurate representation of
The original documents submitted by the applicant.**

Defects in the images may include (but are not limited to):

- **BLACK BORDERS**
- **TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- **FADED TEXT**
- **ILLEGIBLE TEXT**
- **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- **COLORED PHOTOS**
- **BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS**
- **GRAY SCALE DOCUMENTS**

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

(51) Int.Cl. ⁸	識別記号	F I	
H 0 4 N 1/32		H 0 4 N 1/32	Z
G 0 6 F 13/00	3 5 1	G 0 6 F 13/00	3 5 1 G
			3 5 1 B
H 0 4 L 12/54		H 0 4 M 11/00	3 0 3
12/58		H 0 4 N 1/00	1 0 4 Z
審査請求 未請求 請求項の数26 O L (全 14 頁) 最終頁に続く			

(21) 出願番号 特願平10-19721
 (22) 出願日 平成10年(1998) 1月30日

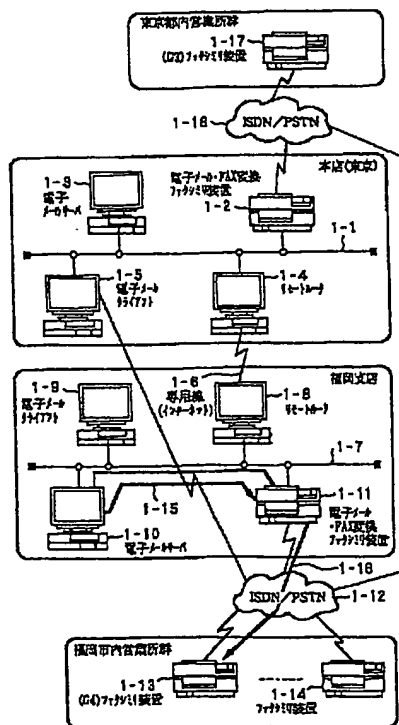
(71) 出願人 000001007
 キヤノン株式会社
 東京都大田区下丸子3丁目30番2号
 (72) 発明者 西巻 明美
 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤ
 ノン株式会社内
 (72) 発明者 池田 徹
 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤ
 ノン株式会社内
 (74) 代理人 弁理士 大塚 康徳 (外2名)

(54) 【発明の名称】 送信先の設定方法及びその通信装置、ネットワークシステム

(57) 【要約】

【課題】 宛先が1つあってもファクシミリ間の通信コストをインターネットを用いて削減し、送信元のファクシミリから、第1の中継機、第2の中継機、受信側のファクシミリ宛先を簡単な操作で指定できるようにする。

【解決手段】 送信元のファクシミリ装置1-17では、送信宛先が電話番号で入力された場合に、該送信宛先に対応して登録されている第1の中継宛先の電話番号及び電子メールアドレスを読み出して、第1の中継宛先である電子メールファクシミリ装置1-2に対し、電子メールアドレスと送信宛先の電話番号とをファクシミリの手順で送信し、電子メールファクシミリ装置1-2では、受信したサブアドレスから、電子メールアドレス及び送信宛先の電話番号を抽出して、送信データと送信宛先を含む電子メールデータを作成して電子メールファクシミリ装置1-11に送信し、電子メールファクシミリ装置1-11では、受信した電子メールデータから送信宛先の電話番号を抽出して送信データを送信先のファクシミリ装置に送信する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 送信データの中継する第1の中継宛先を指定する第1の中継宛先指定手段と、前記送信データを前記第1の中継宛先から第2の中継宛先に転送するための第2の中継宛先を指定する第2の中継宛先指定手段と、前記送信データを、前記第2の中継宛先より転送するための送信宛先を指定するための宛先指定手段とを有することを特徴とする通信装置。

【請求項2】 前記第1の中継宛先は電話番号をあらわすデータで指定され、前記第2の中継宛先は電子メールアドレスを表すデータで指定され、前記送信宛先は電話番号を表すデータで指定されることを特徴とする請求項1記載の通信装置。

【請求項3】 前記第1の中継宛先に対し、前記第2の中継宛先と送信宛先を表すデータをファクシミリの手順で送信する送信手段を更に有することを特徴とする請求項2記載の通信装置。

【請求項4】 前記送信手段は、ITU-T T30で規定されるサブアドレスで前記第2の中継宛先と送信宛先を表すデータとを送信することを特徴とする請求項3記載の通信装置。

【請求項5】 前記第1の中継宛先及び／又は第2の中継宛先を前記送信宛先に対応して登録する第1の登録手段を更に有することを特徴とする請求項1記載の通信装置。

【請求項6】 前記第1の登録手段に前記第1の中継宛先及び／又は第2の中継宛先が登録されていない場合に使用される前記第1の中継宛先及び第2の中継宛先を、前記送信宛先に対応して登録する第2の登録手段を更に有することを特徴とする請求項1又は5記載の通信装置。

【請求項7】 前記第1の中継宛先指定手段及び第2の中継宛先指定手段を付勢するか否かを選択する第1の選択手段を更に有することを特徴とする請求項1記載の通信装置。

【請求項8】 前記宛先指定手段を付勢するか否かを選択する第2の選択手段を更に有することを特徴とする請求項1又は7記載の通信装置。

【請求項9】 前記通信装置はファクシミリ装置であることを特徴とする請求項1乃至8のいずれか1つに記載の通信装置。

【請求項10】 少なくともサブアドレスと送信データを受信する受信手段と、受信した前記サブアドレスから、前記送信データを次の中継宛先に転送するための中継宛先及び／又は該次の中継宛先から送信宛先に転送するための送信宛先を抽出する抽出手段と、前記送信データと送信宛先とを含む電子メールデータを作成して、該電子メールデータを前記中継宛先に送信す

る送信手段とを有することを特徴とする中継機能を有する通信装置。

【請求項11】 前記サブアドレスはITU-T T30で規定されるサブアドレスであり、前記送信宛先はMIMEで記述されたファイルのコマンド領域に格納されることを特徴とする請求項10記載の中継機能を有する通信装置。

【請求項12】 少なくとも送信宛先と送信データとを含む電子メールデータを受信する受信手段と、受信した前記電子メールデータから、前記送信データを転送するための送信宛先を抽出する抽出手段と、前記送信データを前記送信宛先に送信する送信手段とを有することを特徴とする中継機能を有する通信装置。

【請求項13】 前記送信宛先はMIMEで記述されたファイルのコマンド領域に格納されることを特徴とする請求項12記載の中継機能を有する通信装置。

【請求項14】 少なくともサブアドレスと送信データを受信する第1の受信手段と、受信した前記サブアドレスから、前記送信データを次の中継宛先に転送するための中継宛先及び／又は該次の中継宛先から送信宛先に転送するための送信宛先を抽出する第1の抽出手段と、前記送信データと送信宛先とを含む電子メールデータを作成して、該電子メールデータを前記中継宛先に送信する第1の送信手段と、少なくとも送信宛先と送信データとを含む電子メールデータを受信する第2の受信手段と、受信した前記電子メールデータから、前記送信データを転送するための送信宛先を抽出する第2の抽出手段と、前記送信データを前記送信宛先に送信する第2の送信手段とを有することを特徴とする中継機能を有する通信装置。

【請求項15】 前記サブアドレスはITU-T T30で規定されるサブアドレスであり、前記送信宛先はMIMEで記述されたファイルのコマンド領域に格納されることを特徴とする請求項14記載の中継機能を有する通信装置。

【請求項16】 前記中継機能を有する通信装置はファクシミリ装置であることを特徴とする請求項10乃至15のいずれか1つに記載の中継機能を有する通信装置。

【請求項17】 少なくとも、送信元の通信装置と、第1の中継局として機能する中継機能を有する通信装置と、第2の中継局として機能する中継機能を有する通信装置と、送信先の通信装置とが接続されたネットワークシステムであって、前記送信元の通信装置が、送信データの中継する第1の中継宛先を指定する第1の中継宛先指定手段と、前記送信データを前記第1の中継宛先から第2の中継宛先に転送するための第2の中継宛先を指定する第2の中

継宛先指定手段と、
前記送信データを、前記第2の中継宛先より転送するための送信宛先を指定するための宛先指定手段と、
少なくとも、前記第2の中継宛先と送信宛先とを含むサブアドレスと前記送信データとを送信する第3の送信手段とを有し、
前記第1の中継局として機能する中継機能を有する通信装置が、
少なくともサブアドレスと送信データを受信する第1の受信手段と、
受信した前記サブアドレスから、前記送信データを次の中継宛先に転送するための中継宛先及び／又は該次の中継宛先から送信宛先に転送するための送信宛先を抽出する第1の抽出手段と、
前記送信データと送信宛先とを含む電子メールデータを作成して、該電子メールデータを前記中継宛先に送信する第1の送信手段とを有し、
前記第2の中継局として機能する中継機能を有する通信装置が、
少なくとも送信宛先と送信データとを含む電子メールデータを受信する第2の受信手段と、
受信した前記電子メールデータから、前記送信データを転送するための送信宛先を抽出する第2の抽出手段と、
前記送信データを前記送信宛先に送信する第2の送信手段とを有することを特徴とするネットワークシステム。
【請求項18】 前記第1の中継宛先は電話番号をあらわすデータで指定され、前記第2の中継宛先は電子メールアドレスを表すデータで指定され、前記送信宛先は電話番号を表すデータで指定され、前記サブアドレスはITU-T T30で規定されるサブアドレスであり、前記送信宛先はMIMEで記述されたファイルのコマンド領域に格納されることを特徴とする請求項17記載のネットワークシステム。

【請求項19】 送信データを送信するための送信宛先が入力された場合に、該送信宛先に対応して登録されている第1の中継宛先及び／又は第2の中継宛先を読み出し、
前記第1の中継宛先に対し、前記第2の中継宛先と転送宛先を表すデータをファクシミリの手順で送信することを特徴とする通信装置における送信先の設定方法。

【請求項20】 前記通信装置はファクシミリ装置であって、前記送信宛先は電話番号を表すデータで入力され、前記第1の中継宛先は電話番号をあらわすデータで、前記第2の中継宛先は電子メールアドレスを表すデータで登録されていることを特徴とする請求項19記載の通信装置における送信先の設定方法。

【請求項21】 少なくとも、送信元の通信装置と、第1の中継局として機能する中継機能を有する通信装置と、第2の中継局として機能する中継機能を有する通信装置と、送信先の通信装置とが接続されたネットワーク

システムにおける送信先の設定方法であって、
前記送信元の通信装置では、
送信データを送信するための送信宛先が入力された場合に、該送信宛先に対応して登録されている第1の中継宛先及び／又は第2の中継宛先を読み出し、
前記第1の中継宛先に対し、前記第2の中継宛先と転送宛先を表すデータをファクシミリの手順で送信し、
前記第1の中継局として機能する中継機能を有する通信装置では、
受信した前記サブアドレスから、前記送信データを転送するための前記第2の中継宛先及び前記第2の中継宛先から更に転送するための前記送信宛先を抽出し、
前記送信宛先を含む電子メールデータを作成して、該電子メールデータを前記第2の中継宛先に送信し、
前記第2の中継局として機能する中継機能を有する通信装置では、
受信した前記電子メールデータから、前記送信データを転送するための前記送信宛先を抽出して、前記送信データを前記送信宛先に送信することを特徴とするネットワークシステムにおける送信先の設定方法。

【請求項22】 前記送信元及び送信先の通信装置はファクシミリ装置であって、前記送信宛先は電話番号を表すデータで入力され、前記第1の中継宛先は電話番号をあらわすデータで、前記第2の中継宛先は電子メールアドレスを表すデータで登録されており、前記サブアドレスはITU-T T30で規定されるサブアドレスであり、前記送信宛先はMIMEで記述されたファイルのコマンド領域に格納されることを特徴とする請求項21記載のネットワークシステムにおける送信先の設定方法。

【請求項23】 通信装置を制御する制御プログラムをコンピュータ読み出し可能に記憶する記憶媒体であって、

前記制御プログラムが、少なくとも、
送信データを送信するための送信宛先が入力された場合に、該送信宛先に対応して登録されている第1の中継宛先及び／又は第2の中継宛先を読み出す読出モジュールと、

前記第1の中継宛先に対し、前記第2の中継宛先と転送宛先を表すデータをファクシミリの手順で送信する送信モジュールとを含むことを特徴とする記憶媒体。

【請求項24】 前記送信宛先に対応して前記第1の中継宛先及び／又は第2の中継宛先を登録する管理テーブルを更に含むことを特徴とする請求項23記載の記憶媒体。

【請求項25】 中継機能を有する通信装置を制御する制御プログラムをコンピュータ読み出し可能に記憶する記憶媒体であって、

前記制御プログラムが、少なくとも、

受信したサブアドレスから、送信データを転送するための第2の中継宛先及び該第2の中継宛先から更に転送す

るための送信宛先を抽出する第1の抽出モジュールと、前記送信宛先を含む電子メールアドレスを作成して、該電子メールアドレスを前記第2の中継宛先に送信する第1の送信モジュールと、

受信した電子メールアドレスから、送信データを転送するための送信宛先を抽出する第2の抽出モジュールと、前記送信データを前記送信宛先に送信する第2の送信モジュールとを含むことを特徴とする記憶媒体。

【請求項26】 前記送信宛先に対応して第1の中継宛先及び/又は第2の中継宛先を登録する管理テーブルを更に含むことを特徴とする請求項25記載の記憶媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明はISDN、PSTNなどの公衆回線やインターネットなどのコンピュータネットワークを介して相互に接続できるファクシミリ等の通信装置における送信先の設定方法及びその通信装置、ネットワークシステムに関するものである。

【0002】

【従来の技術】今日、ネットワーク環境の整備がすすみ、電子メールなどLAN間をインターネットで接続した通信が盛んになってきている。インターネットを介した通信では、通信料金がかからず、ファクシミリ等においてもインターネットを介した通信が適用されることが期待されている。

【0003】例えば、ファクシミリの通信においても、従来より、中継機に対して画像を送信し、該中継機より受信した画像を同報宛先に同報送信することで、送信元より同報宛先への送信に必要な通信コストの削減を目指したものがあった。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記従来技術では、送信元と中継機間、該中継機と同報先間のファクシミリの通信コストが2重にかかるし、中継宛先が1つの場合には通信コストの削減にならない。

【0005】本発明は、宛先が1つあっても送信側のファクシミリと受信側のファクシミリの通信コストをインターネットなどのネットワークを用いて削減することを目的とする。

【0006】又、送信元のファクシミリから、公衆回線を介してインターネットに接続される第1の中継機に画像を送信し、インターネットを介して第2の中継機に前記画像データを送信し、第2の中継機より公衆回線に接続される受信側のファクシミリに画像データを送信する場合に、第1の中継機、第2の中継機、受信側のファクシミリの宛先を送信元で簡単な操作で指定できるようにすることを目的とする。

【0007】更に、非標準の手順をあらたに設計する手間もなく、標準機能をもったファクシミリと広く通信できるようにすることを目的とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために、本発明の通信装置は、送信データを中継する第1の中継宛先を指定する第1の中継宛先指定手段と、前記送信データを前記第1の中継宛先から第2の中継宛先に転送するための第2の中継宛先を指定する第2の中継宛先指定手段と、前記送信データを、前記第2の中継宛先より転送するための送信宛先を指定するための宛先指定手段とを有することを特徴とする。

【0009】ここで、前記第1の中継宛先は電話番号をあらわすデータで指定され、前記第2の中継宛先は電子メールアドレスを表すデータで指定され、前記送信宛先は電話番号を表すデータで指定される。また、前記第1の中継宛先に対し、前記第2の中継宛先と送信宛先を表すデータをファクシミリの手順で送信する送信手段を更に有する。また、前記送信手段は、ITU-T T30で規定されるサブアドレスで前記第2の中継宛先と送信宛先を表すデータとを送信する。また、前記第1の中継宛先及び/又は第2の中継宛先を前記送信宛先に対応して登録する第1の登録手段を更に有する。また、前記第1の登録手段に前記第1の中継宛先及び/又は第2の中継宛先が登録されていない場合に使用される前記第1の中継宛先及び第2の中継宛先を、前記送信宛先に対応して登録する第2の登録手段を更に有する。また、前記第1の中継宛先指定手段及び第2の中継宛先指定手段を付勢するか否かを選択する第1の選択手段を更に有する。また、前記宛先指定手段を付勢するか否かを選択する第2の選択手段を更に有する。また、前記通信装置はファクシミリ装置である。

【0010】又、本発明の中継機能を有する通信装置は、少なくともサブアドレスと送信データを受信する受信手段と、受信した前記サブアドレスから、前記送信データを次の中継宛先に転送するための中継宛先及び/又は該次の中継宛先から送信宛先に転送するための送信宛先を抽出する抽出手段と、前記送信データと送信宛先とを含む電子メールアドレスを作成して、該電子メールアドレスを前記中継宛先に送信する送信手段とを有することを特徴とする。ここで、前記サブアドレスはITU-T T30で規定されるサブアドレスであり、前記送信宛先はMIMEで記述されたファイルのコマンド領域に格納される。

【0011】又、本発明の中継機能を有する通信装置は、少なくとも送信宛先と送信データとを含む電子メールアドレスを受信する受信手段と、受信した前記電子メールアドレスから、前記送信データを転送するための送信宛先を抽出する抽出手段と、前記送信データを前記送信宛先に送信する送信手段とを有することを特徴とする。ここで、前記送信宛先はMIMEで記述されたファイルのコマンド領域に格納される。

【0012】又、本発明の中継機能を有する通信装置

は、少なくともサブアドレスと送信データを受信する第1の受信手段と、受信した前記サブアドレスから、前記送信データを次の中継宛先に転送するための中継宛先及び／又は該次の中継宛先から送信宛先に転送するための送信宛先を抽出する第1の抽出手段と、前記送信データと送信宛先とを含む電子メールデータを作成して、該電子メールデータを前記中継宛先に送信する第1の送信手段と、少なくとも送信宛先と送信データとを含む電子メールデータを受信する第2の受信手段と、受信した前記電子メールデータから、前記送信データを転送するための送信宛先を抽出する第2の抽出手段と、前記送信データを前記送信宛先に送信する第2の送信手段とを有することを特徴とする。ここで、前記サブアドレスはI T U-T T 30で規定されるサブアドレスであり、前記送信宛先はM I M Eで記述されたファイルのコマンド領域に格納される。また、前記中継機能を有する通信装置はファクシミリ装置である。

【0013】又、本発明のネットワークシステムは、少なくとも、送信元の通信装置と、第1の中継局として機能する中継機能を有する通信装置と、第2の中継局として機能する中継機能を有する通信装置と、送信先の通信装置とが接続されたネットワークシステムであって、前記送信元の通信装置が、送信データを中継する第1の中継宛先を指定する第1の中継宛先指定手段と、前記送信データを前記第1の中継宛先から第2の中継宛先に転送するための第2の中継宛先を指定する第2の中継宛先指定手段と、前記送信データを、前記第2の中継宛先より転送するための送信宛先を指定するための宛先指定手段と、少なくとも、前記第2の中継宛先と送信宛先とを含むサブアドレスと前記送信データとを送信する第3の送信手段とを有し、前記第1の中継局として機能する中継機能を有する通信装置が、少なくともサブアドレスと送信データを受信する第1の受信手段と、受信した前記サブアドレスから、前記送信データを次の中継宛先に転送するための中継宛先及び／又は該次の中継宛先から送信宛先に転送するための送信宛先を抽出する第1の抽出手段と、前記送信データと送信宛先とを含む電子メールデータを作成して、該電子メールデータを前記中継宛先に送信する第1の送信手段とを有し、前記第2の中継局として機能する中継機能を有する通信装置が、少なくとも送信宛先と送信データとを含む電子メールデータを受信する第2の受信手段と、受信した前記電子メールデータから、前記送信データを転送するための送信宛先を抽出する第2の抽出手段と、前記送信データを前記送信宛先に送信する第2の送信手段とを有することを特徴とする。ここで、前記第1の中継宛先は電話番号をあらわすデータで指定され、前記第2の中継宛先は電子メールアドレスを表すデータで指定され、前記送信宛先は電話番号を表すデータで指定され、前記サブアドレスはI T U-T T 30で規定されるサブアドレスであり、前記送

信宛先はM I M Eで記述されたファイルのコマンド領域に格納される。

【0014】又、本発明の通信装置における送信先の設定方法は、送信データを送信するための送信宛先が入力された場合に、該送信宛先に対応して登録されている第1の中継宛先及び／又は第2の中継宛先を読み出し、前記第1の中継宛先に対し、前記第2の中継宛先と転送宛先を表すデータをファクシミリの手順で送信することを特徴とする。ここで、前記通信装置はファクシミリ装置であって、前記送信宛先は電話番号を表すデータで入力され、前記第1の中継宛先は電話番号をあらわすデータで、前記第2の中継宛先は電子メールアドレスを表すデータで登録されていることを特徴とする請求項19記載の通信装置における送信先の設定方。

【0015】又、本発明のネットワークシステムにおける送信先の設定方法は、少なくとも、送信元の通信装置と、第1の中継局として機能する中継機能を有する通信装置と、第2の中継局として機能する中継機能を有する通信装置と、送信先の通信装置とが接続されたネットワークシステムにおける送信先の設定方法であって、前記送信元の通信装置では、送信データを送信するための送信宛先が入力された場合に、該送信宛先に対応して登録されている第1の中継宛先及び／又は第2の中継宛先を読み出し、前記第1の中継宛先に対し、前記第2の中継宛先と転送宛先を表すデータをファクシミリの手順で送信し、前記第1の中継局として機能する中継機能を有する通信装置では、受信した前記サブアドレスから、前記送信データを転送するための前記第2の中継宛先及び前記第2の中継宛先から更に転送するための前記送信宛先を抽出し、前記送信宛先を含む電子メールデータを作成して、該電子メールデータを前記第2の中継宛先に送信し、前記第2の中継局として機能する中継機能を有する通信装置では、受信した前記電子メールデータから、前記送信データを転送するための前記送信宛先を抽出して、前記送信データを前記送信宛先に送信することを特徴とする。ここで、前記送信元及び送信先の通信装置はファクシミリ装置であって、前記送信宛先は電話番号を表すデータで入力され、前記第1の中継宛先は電話番号をあらわすデータで、前記第2の中継宛先は電子メールアドレスを表すデータで登録されており、前記サブアドレスはI T U-T T 30で規定されるサブアドレスであり、前記送信宛先はM I M Eで記述されたファイルのコマンド領域に格納される。

【0016】又、本発明の記憶媒体は、通信装置を制御する制御プログラムをコンピュータ読み出し可能に記憶する記憶媒体であって、前記制御プログラムが、少なくとも、送信データを送信するための送信宛先が入力された場合に、該送信宛先に対応して登録されている第1の中継宛先及び／又は第2の中継宛先を読み出す読出モジュールと、前記第1の中継宛先に対し、前記第2の中

宛先と転送宛先を表すデータをファクシミリの手順で送信する送信モジュールとを含むことを特徴とする。前記送信宛先に対応して前記第1の中継宛先及び／又は第2の中継宛先を登録する管理テーブルを更に含む。

【0017】又、本発明の記憶媒体は、中継機能を有する通信装置を制御する制御プログラムをコンピュータ読み出し可能に記憶する記憶媒体であって、前記制御プログラムが、少なくとも、受信したサブアドレスから、送信データを転送するための第2の中継宛先及び該第2の中継宛先から更に転送するための送信宛先を抽出する第1の抽出モジュールと、前記送信宛先を含む電子メールデータを作成して、該電子メールデータを前記第2の中継宛先に送信する第1の送信モジュールと、受信した電子メールデータから、送信データを転送するための送信宛先を抽出する第2の抽出モジュールと、前記送信データを前記送信宛先に送信する第2の送信モジュールとを含むことを特徴とする。前記送信宛先に対応して第1の中継宛先及び／又は第2の中継宛先を登録する管理テーブルを更に含む。

【0018】

【発明の実施の形態】以下、図面を参照して本発明の実施の形態を詳細に説明する。

【0019】<本実施の形態のネットワークシステムの構成例>図1は本実施の形態のファクシミリ装置と電子メール・ファクシミリ変換機能を有するファクシミリ装置（以降、電子メールファクシミリ装置とする）とが接続されたネットワークシステムの一例を示した図である。

【0020】図1において、第1本店（東京）のローカルエリアネットワーク（以降、LANとする）1-1には、本例の電子メールファクシミリ装置1-2、電子メールサーバ1-3、電子メールクライアントのPC1-5、及び福岡支店と専用線1-6でLAN接続するためのリモートルータ1-4が接続されている。更に、電子メールファクシミリ装置1-2は、公衆電話網（PSTN）又は統合サービスデジタル網（ISDN）1-18と接続され、本例の東京都内営業所のファクシミリ装置1-17とのファクシミリ通信が可能である。

【0021】一方、福岡支店のLAN1-7には、本店とLAN間接続するためのリモートルータ1-8、本例の電子メールファクシミリ装置1-11、電子メールサーバ1-10、及び電子メールクライアントのPC1-9が接続されている。更に、電子メールファクシミリ装置1-11は、公衆電話網（PSTN）又は統合サービスデジタル網（ISDN）1-12と接続され、福岡市内の営業所のファクシミリ装置1-13、1-14とのファクシミリ通信が可能である。

【0022】本実施の形態では、図2のように、東京都内営業所のファクシミリ装置1-17から、福岡市内営業所のファクシミリ装置1-13へ送信を行なう際に

は、東京本社の電子メールファクシミリ装置1-2と福岡支店の電子メールファクシミリ装置1-11を専用線やインターネットを介して通信するものである。

【0023】<本実施の形態のファクシミリ装置の構成例>まず、中継指示局である東京都内営業所のG3ファクシミリ装置の動作に関して説明する。

【0024】図3は、本例の形態のG3ファクシミリ装置（1-17）の構成例を示したブロック図である。

【0025】図3において、各要素はバス3-1により接続されている。ROM3-2は、CPU3-3により実行されるコンピュータプログラム（装置全体を制御するためのソフトウェア）を格納したリードオンリーメモリであり、CPU3-3は、ROM3-2に格納されている（あるいは、RAM3-4にダウンロードされた）プログラムを実行することにより装置の制御を行なう。

【0026】RAM3-4は、制御に必要な各種のデータや図5に示すような登録管理データ、あるいはプログラムを記憶するためのランダムアクセスメモリであり、蓄積メモリ3-5は、ファクシミリ通信の符号化されたデータ、電子メールのデータやスキャン、プリント画像データを記憶するためのメモリである。ここで、蓄積メモリ3-5はRAM3-4に含まれてもよい。尚、制御に必要な各種のデータや登録管理データ、あるいはプログラムは、後述の外部記憶部3-12からロードされてもよいし、電子メールファクシミリ装置1-2からダウンロードされてもよい。

【0027】回線I/F部3-6は、ISDN回線やPSTN回線1-18を介して通信を行なうためのCCU（通信制御ユニット）、モデム、NCU（網制御ユニット）等を有し、CPU3-3による制御に従って、回線への発呼動作や通信動作を行なう。

【0028】プリンタ部3-7は、CPU3-3による制御に従って、ファクシミリ受信画像の記録、コピー記録動作、PCからのプリント要求に対する動作等を行なう。読取部3-8は、CPU3-3による制御に従って、送信画像のスキャン、コピー読み取り動作、PCからのスキャン要求に対する動作等を行なう。操作部3-9は、CPU3-3による制御に従って、入力されたキー入力情報、表示する各種の情報から他の制御部へ情報を伝達し、動作内容に応じた表示を行なう。

【0029】画像線密度変換部3-10は、画像データの解像度変換、ページサイズの変換、及びミリ／インチの変換などを行なう。圧縮伸長部3-11は、読取部3-8により読み取られて画像データを符号化（MH, MR, MMR, JBIG等）したり、また、受信した符号化データを復号化したりする。外部記憶部3-12は、フロッピーディスクやCD-ROM等の記憶媒体からなり、例えばプログラムや図5に示すような登録管理データを格納していて、RAM3-4にロードされたり、符号化されたデータ、電子メールのデータやスキャン、プ

リント画像データを保存するのに使用される。

【0030】図5は、本例の中継指示局（G3ファクシミリ）である東京都内営業所1-17のG3ファクシミリが東京本社の第1中継局である電子メールファクシミリ装置1-2と第2中継局である福岡支社の電子メールファクシミリ1-11を経由して、G3ファクシミリ1-13に送信を行うための登録管理データの例を示す図である。

【0031】登録管理データは、電話番号管理テーブル5-1と、中継送信登録管理データ5-7との2種類の登録管理データから成る。

【0032】まず、電話番号管理テーブルを説明する。本テーブルは、宛先入力ワンタッチダイヤルもしくは短縮ダイヤルの時にはNo. XやNameで検索され、宛先入力電話番号の場合にはTel. Noで検索されて使用される宛先データである。登録管理データは、宛先略称5-2、宛先電話番号5-3、送信モード5-4、そして、送信モードが「電子メール中継送信」の場合、第1中継局5-5、第2中継局5-6が指定可能である。

【0033】第1中継局とは、東京本社の電子メールファクシミリ装置1-2のような、ISDNやPSTNを介して受信を行い、専用線やインターネットを介して電子メールを送信する中継局をさし、第2中継局とは、福岡支店の電子メールファクシミリ装置1-11のような、専用線やインターネットを介して電子メールを受信し、ISDNやPSTNを介して送信を行う中継局をさす。

【0034】第1中継局は5-5は、(03-4567-8901)のように電話番号により指定されるものであり、第2中継局は5-6は(fukuo@ccc.bbb.dd.ee)のようにメールアドレスにより指定されるものである。ただし、第1、2中継局共に、電子メールファクシミリでなくてはならない。第1中継局の電話番号5-5は送信宛先に用いられ、第2中継局のメールアドレス5-6は、第1中継局へ中継データとして渡されるものである。

【0035】次に、中継送信登録管理データ5-7に関して説明する。

【0036】宛先指定がワンタッチダイヤルもしくは短縮ダイヤル（あるいは、電話番号）で送信モード登録の内容が「電子メール中継モード」の場合は、先に説明した登録管理データの第1、第2中継局アドレスを用いて中継を行なう。しかし、第1、第2中継局アドレスが指定されていない場合は、中継送信登録管理データの第1中継アドレス5-8、第2中継アドレス5-9を使用する。

【0037】また、予め送信モードを「電子メール中継モード」に設定し、宛先入力を行なった場合は、中継送信登録管理データの第1、第2中継アドレスを用いる。

第1中継局アドレス5-8は電話番号を、第2中継局アドレス5-9は電子メールアドレスを登録するものである。本第1、第2中継局は電子メールファクシミリが指定される。

【0038】本例の登録管理データは、構成を保ったまま以下のように拡張されて使用できる。例えば、送信モードが「ファクシミリ送信」の場合は、宛先電話番号5-3のみが登録され、第1、第2中継局アドレスは使用されない。また、送信モードが「電子メール送信」の場合は、宛先電話番号5-3に宛先メールアドレスが登録され、第2中継局アドレスは使用されない。また、送信モードが「ファクシミリ中継モード」の場合は、第2中継局アドレスに電話番号が登録される。

【0039】図6はITU-T T30で規定されているサブアドレスの内容を決定するためのワークエリアで、RAM3-4に設けられている。以下サブアドレス格納バッファ6-1と呼ぶ。サブアドレスデータの生成は文字数データ6-2と格納アドレスポインタ6-3で管理されている。

【0040】サブアドレス格納バッファ6-1へは、本例では最終受信局である福岡市内営業所のG4ファクシミリ装置1-13の相手先電話番号と第2中継局のメールアドレスとが格納される。

【0041】図7はその例である。相手先電話番号が確定したならば7-2、その内容をサブアドレス格納バッファにコピーし、バッファポインタは文字数分進めておく。第2中継局が指定されている場合は、区切り文字“#”を付加しポインタを1つ進め、第2中継局アドレス7-3をポインタの指定するアドレスにコピーする(7-1)。

【0042】＜本実施の形態のファクシミリ装置の動作手順例＞図4は中継指示局である東京都内営業所1-17が中継送信を指示し、電子メールファクシミリを経由して相手先へ送信予約を行うための動作例を示すフローチャートである。

【0043】指示局の操作部3-9のキーオペレーションによって、電子メール中継ボタンを受け付けると中継指示送信モードに移行する(S4-1)。

【0044】中継モードに入ったら、サブアドレス格納バッファ6-1をNULLクリアし、文字数データ6-2、格納アドレスポインタ6-3の管理情報を初期化しておく(S4-2)。そして、相手先の電話番号入力待ちとなる(S4-3)。相手先電話番号は、テンキー入力、ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤルのキー入力どちらでもよい。また、宛先の内容は電話番号と電子メールアドレスのどちらでもよい。

【0045】送信先である相手先アドレスが入力されると、メールアドレスをサブアドレス格納バッファ6-1に書き込み(S4-4)、相手先アドレスが電話番号であるかメールアドレスであるか否かを判断する(S4-

5)。メールアドレスの場合には、登録してある第1中継局へ中継指示送信を行う(S4-8)。

【0046】宛先が電話番号の場合、サブアドレス格納バッファ6-1に入力された相手先電話番号を書き込み(S4-5)、管理情報を更新しておく。相手先電話番号に対応して第2中継局が指示されているかを判断し(S4-6)、指示されている場合は、区切り文字“#”マークを格納し、引き続き第2中継局のメールアドレスを書き込む(S4-7a)。指示されていない場合は、中継送信登録データ5-7から第2中継局のメールアドレスを読んで書き込む(S4-7b)。

【0047】そして、第1中継電子メールファクシミリ1-2に発呼し、原稿読み込みを行い中継送信を開始する。

【0048】次に、ワンタッチ登録で、相手先電話番号が登録され、送信モードが「電子メール中継送信」であり、第2中継電子メールファクシミリが指定されていた場合に関して、次に説明する。

【0049】スタンバイ状態で、操作部のキーオペレーションでワンタッチキーが押下された場合(S4-9)、ワンタッチの登録内容を参照して、電子メール中継モードが設定されているか否かを判断する(S4-10)。中継モードが設定されていなかった場合は、通常のG3送信を行う(S4-11)。中継モードが設定されていた場合は、先に説明したS4-2からS4-8(S4-3はパスする)の実行を行なう。

【0050】尚、他のキー/ボタンの入力の場合は(S4-12)、他の対応する処理を行う(S4-13)。

【0051】<本実施の形態の電子メールファクシミリ装置の構成例>第1中継局である東京本社の電子メールファクシミリ装置1-2の構成例を、図8に示す。

【0052】図8において、各要素はバス8-1により接続されている。ROM8-2は、CPU8-3により実行されるコンピュータプログラム(装置全体を制御するためのソフトウェア)を格納したリードオンリーメモリであり、CPU8-3は、ROM8-2に格納されている(あるいは、RAM8-4にダウンロードされた)プログラムを実行することにより装置の制御を行なう。

【0053】RAM8-4は、制御に必要な各種のデータや図5に示すような登録管理データ、あるいはプログラムを記憶するためのランダムアクセスメモリであり、蓄積メモリ8-5は、ファクシミリ通信の符号化されたデータ、電子メールのデータやスキャン、プリント画像データを記憶するためのメモリである。ここで、蓄積メモリ3-5はRAM3-4に含まれてもよい。尚、制御に必要な各種のデータや登録管理データ、あるいはプログラムは、後述の外部記憶部8-13からロードされてもよい回線I/F部8-6は、ISDN回線やPSTN回線1-18を介して通信を行なうためのCCU(通信制御ユニット)、モデム、NCU(網制御ユニット)等

を有し、CPU8-3による制御に従って、回線への発呼動作や通信動作を行なう。

【0054】プリンタ部8-7は、CPU8-3による制御に従って、ファクシミリ受信画像の記録、コピー記録動作、PCからのプリント要求に対する動作等を行なう。読取部8-8は、CPU8-3による制御に従って、送信画像のスキャン、コピー読み取り動作、PCからのスキャン要求に対する動作等を行なう。操作部8-0は、CPU8-3による制御に従って、入力されたキー入力情報、表示する各種の情報から他の制御部へ情報を伝達し、動作内容に応じた表示を行なう。

【0055】画素線密度変換部8-10は、画像データの解像度変換、ページサイズの変換、及びミリ/インチの変換などを行なう。圧縮伸長部8-11は、読取部8-8により読み取られて画像データを符号化(MH, MR, MMR, JBIG等)したり、また、受信した符号化データを復号化したりする。LAN I/F部8-12は、LAN1-1に接続するためのインターフェースである。

【0056】外部記憶部8-13は、フロッピーディスクやCD-ROM等の記憶媒体からなり、例えばプログラムや図5に示すような登録管理データを格納していて、RAM8-4やRAM3-4にロードされたり、符号化されたデータ、電子メールのデータやスキャン、プリント画像データを保存するのに使用される。

【0057】尚、電子メールデータのテキストを画像データに変換する際、文字コードからビットマップイメージデータに変換するためのビットマップデータは、ROM8-2に格納されている。

【0058】第1中継局は、図10に示すサブアドレスを受信して解析する手段を持つ。まず、サブアドレスデータとして受信した内容をサブアドレス格納バッファ10-1に格納する。

【0059】サブアドレスのバッファポインタ10-2は順次インクリメントされ、バッファに格納された文字をチェックするために用いられる。そして、中継先アドレスバッファ10-3と送信先アドレスバッファ10-4は、サブアドレス格納バッファ10-1のデータを区切り文字“#”で分離してそれぞれ格納するエリアである。

【0060】区切り文字“#”より前のデータの(078-9012-3456)は宛先電話番号として送信先アドレスバッファ10-4に、区切り文字“#”より後のデータの(fukuo@ccc.bbb.dddd.ee)は中継先メールアドレスとして、中継先アドレスバッファ10-3に格納される。

【0061】また、送信モードを格納する変数保持部10-5には、先のサブアドレス格納バッファ10-1の内容によって「電子メール中継送信」や「電子メール送信」などの送信モードが格納される。通信モードの決定

方法は、区切り文字の有無と宛先内容から判断する。サブアドレスの内容に区切り文字が存在して中継先が電子メールアドレスの場合に、送信モードを「電子メール中継送信」に設定し、中継先が電話番号であった場合には、「ファクシミリ中継送信」に設定する。

【0062】区切り文字がなく、データの内容が電子メールアドレスの場合には、送信モードを「電子メール」に設定し、データの内容が電話番号なら「ファクシミリ送信」に設定する。

【0063】＜本実施の形態の電子メールファクシミリ装置の第1中継局での動作手順例＞図9は第1中継局が中継動作を行なう動作手順例を示したフローチャートである。

【0064】第1中継局は中継受信であることを認識し（S9-1）、サブアドレスをサブアドレス格納バッファ10-1に書き込む（S9-2）。中継受信でない場合は、ファクシミリ受信を行い、画像をプリント出力する（S9-15）。

【0065】画像を受信すると、画像データを蓄積形式に変換して画像メモリに蓄積し、受信を終了する（S9-3）。受信終了後、先のサブアドレス格納バッファ10-1の内容を解釈する。その手順は以下のとおりである。

【0066】まず、サブアドレスの内容が有効データであるかをチェックする（S9-4）。有効データで構成されていた場合は、中継局の指定の有無を示す区切り文字があるか否かを確認する（S9-5）。

【0067】区切り文字が存在した場合は、第2中継局である電子メールファクシミリのメールアドレスと受信FAXの電話番号を分離し（S9-6）、送信先アドレスバッファ10-4と中継先アドレスバッファ10-3に対応するデータを格納し（S9-7）、次の送信モードを中継送信に設定する（S9-8）。区切り文字が無い場合は、送信先アドレスバッファ10-4にサブアドレス格納バッファの内容をコピーし（S9-7）、次の送信モードを電子メール送信に設定する（S9-8）。

【0068】宛先バッファに格納された内容が、メールアドレスの場合は（S9-9）、先に受信した画像ファイルをTIFF形式のファイルに変換する（S9-10）。次の送信モードの内容に合致する送信動作に移行する（S9-11）。

【0069】尚、本例では、電子メールの送信内容は、MIME（IETFが勧告している電子メールデータフォーマットである「Multipurpose Internet Mail Extensions」）で記述されたテキストファイルとそれに添付するTIFF形式のファイルに変換した受信画像とである。

【0070】図11及び図12に示すように、MIMEで記述されたファイルのCommand部分の指示は送信モードに依存する。通常の送信の場合には、Command部分に

はNoneが入る（図11）。中継送信に設定されていた時は、MIMEで記述されたファイルのCommand部分の指示を中継にし、かつ送信先アドレスバッファ10-4の内容を送信先アドレスとして設定する（S9-12）。送信先アドレスは複数個設定してもよい。例を図12に示す。そして、中継先アドレスバッファ10-3の内容を宛先情報（To・・・）に設定して、SMTP（IETFにより勧告されたSimple Mail Transfer Protocol）でリモートルータ1-4、専用線1-6、リモートルータ1-8を経由して、福岡支店の電子メールサーバ1-10の記憶装置に送信される。（S9-13）

送信モードが電子メールの場合は、MIMEで記述されたファイルのCommand部分を送信に設定し、送信先アドレスバッファ10-4の内容を宛先情報に設定してSMTPによりメール送信を行なう（S9-14）。

【0071】＜本実施の形態の電子メールファクシミリ装置の第2中継局での動作手順例＞第2中継局である福岡支社の電子メールファクシミリ1-11は、第1中継局同様に、図8の構成からなる。

【0072】図13は第2中継局が中継受信動作を行い、G3ファクシミリに対してPSTNを介して送信を行う動作手順例を示すフローチャートである。

【0073】第2中継局は、電子メールサーバ1-10に対してポーリングにより、電子メールのデータの有無の問合せ及び電子メールデータの引き出し処理を定期的に実行する。

【0074】ポーリング処理の通信手順シーケンスは、POP3（「IETF（Internet Engineering Task Force）」が勧告する「Post Office Protocol Ver.3」）を用いる。

【0075】メール受信があった場合（S13-1）、本電子メールファクシミリ1-11が電子メールサーバ1-10から電子メールデータを引き出す（S13-2）。

【0076】そして、引き出したMIME形式のデータの内容から、中継モードを認識すると（S13-3）、宛先ダイヤル情報を抜き出す（S13-4）。添付ファイルを、例えばMMR等のT.30圧縮形式の画像データに変換して（S13-5）、相手先に自動ダイヤルし（S13-6）、画像送信を行なう（S13-7）。

【0077】また、ファクシミリ宛先が複数指定されている場合は、同報送信する。本例のファクシミリ送信の手順は、ITU-T勧告のT.30手順である。

【0078】なお、本発明は、複数の機器（例えばホストコンピュータ、インタフェイス機器、リーダ、プリンタなど）から構成されるシステムに適用しても、1つの機器からなる装置（例えば、複写機、ファクシミリ装置など）に適用してもよい。

【0079】また、本発明の目的は、上述したように、前述した実施形態の機能を実現するソフトウェアのプロ

グラムコードを記録した記憶媒体を、システムあるいは装置に供給し、そのシステムあるいは装置のコンピュータ（またはCPUやMPU）が記憶媒体に格納されたプログラムコードを読み出し実行することによっても、達成されることは言うまでもない。この場合、記憶媒体から読み出されたプログラムコード自体が前述した実施形態の機能を実現することになり、そのプログラムコードを記憶した記憶媒体は本発明を構成することになる。

【0080】プログラムコードを供給するための記憶媒体としては、例えば、フロッピーディスク、ハードディスク、光ディスク、光磁気ディスク、CD-ROM、CD-R、磁気テープ、不揮発性のメモリカード、ROMなどを用いることができる。

【0081】また、コンピュータが読み出したプログラムコードを実行することにより、前述した実施形態の機能が実現されるだけでなく、そのプログラムコードの指示に基づき、コンピュータ上で稼働しているOS（オペレーティングシステム）などが実際の処理の一部または全部を行い、その処理によって前述した実施形態の機能が実現される場合も含まれることは言うまでもない。

【0082】さらに、記憶媒体から読み出されたプログラムコードが、コンピュータに挿入された機能拡張ボードやコンピュータに接続された機能拡張ユニットに備わるメモリに書込まれた後、そのプログラムコードの指示に基づき、その機能拡張ボードや機能拡張ユニットに備わるCPUなどが実際の処理の一部または全部を行い、その処理によって前述した実施形態の機能が実現される場合も含まれることは言うまでもない。

【0083】本発明を上記記憶媒体に適用する場合、その記憶媒体には、先に説明したフローチャートに対応するプログラムコードを格納することになる。

【0084】本実施の形態によれば、ISDNやPSTNなどの公衆電話回線に送信側のファクシミリと受信側のファクシミリが接続されている場合に、その通信に要するコストをインターネットなどの公衆回線とは異なるネットワークを用いることで削減できるようになった。

【0085】又、送信元のファクシミリからインターネットに接続される第1の中継機に画像データを送信し、インターネットに接続される第2の中継機に第1の中継機より画像データを送信し、第2の中継機より公衆回線に接続される受信側のファクシミリに画像データを送信する場合に、送信元で第1の中継機、第2の中継機、受信側のファクシミリの宛先を指定できるようになった。さらに、送信元で、前述の各宛先を指定できるようにすることで、第1の中継機には、第2の中継機を決定する複雑なプロセスが不要となり、簡易に通信コストを削減できるシステムが構築できるようになった。

【0086】又、第2の中継宛先、受信側のファクシミリの宛先をファクシミリの手順で送信することで、通信中にオペレータにわずらわしい宛先指示動作をしないで

すむようになり操作性が向上した。

【0087】更に、第2の中継宛先、受信側ファクシミリの宛先をITU-T T30で規定される勧告を用いることで宛先の指定のために非標準の手順をあらたに設計する手間も不要となった。さらに、独自の手順ではないので標準機能をもったファクシミリと広く通信できるようになった。

【0088】

【発明の効果】本発明により、宛先が1つあっても送信側のファクシミリと受信側のファクシミリの通信コストをインターネットなどのネットワークを用いて削減することができる。

【0089】又、送信元のファクシミリから、公衆回線を介してインターネットに接続される第1の中継機に画像を送信し、インターネットを介して第2の中継機に前記画像データを送信し、第2の中継機より公衆回線に接続される受信側のファクシミリに画像データを送信する場合に、第1の中継機、第2の中継機、受信側のファクシミリの宛先を送信元で簡単な操作で指定できる。

【0090】更に、非標準の手順をあらたに設計する手間もなく、標準機能をもったファクシミリと広く通信できる。

【0091】

【図面の簡単な説明】

【図1】本実施の形態のファクシミリ装置と電子メールファクシミリ装置を有するネットワークシステムの構成例を示した図である。

【図2】本実施の形態の送信経路例を図1より抜き出した図である。

【図3】本実施の形態の中継指示G3ファクシミリ装置の構成例を示したブロック図である。

【図4】本実施の形態の中継指示送信を行なうG3ファクシミリの動作手順例を示すフローチャートである。

【図5】本実施の形態の中継指示送信を行なうG3ファクシミリの中継指示送信を管理する登録管理データ例を示した図である。

【図6】本実施の形態の中継指示送信を行なうG3ファクシミリのサブアドレス管理データを示した図である。

【図7】本実施の形態の中継指示送信時のサブアドレスの例を示した図である。

【図8】本実施の形態の電子メールファクシミリ装置の構成例を示したブロック図である。

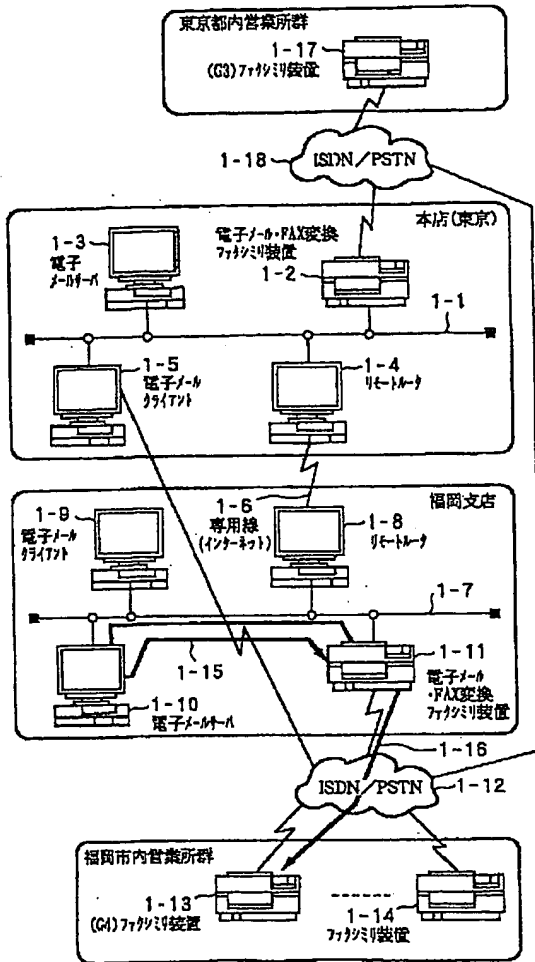
【図9】本実施の形態の第1中継局電子メールファクシミリの動作手順例を示したフローチャートである。

【図10】本実施の形態の第1中継局電子メールファクシミリの中継指示受信時のサブアドレス管理データの例を示した図である。

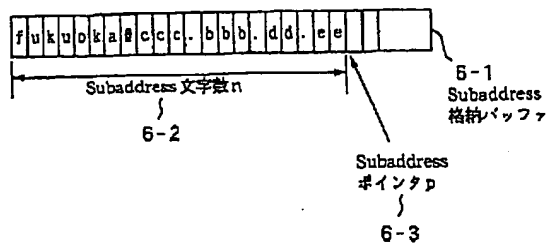
【図11】本実施の形態の第1中継局電子メールファクシミリが作成する電子メールのMIMEファイルのデータ内容例を示す図である。

【図12】本実施の形態の第1中継局電子メールファクシミリが作成する中継電子メールのMIMEファイルのデータ内容例を示す図である。

【図1】

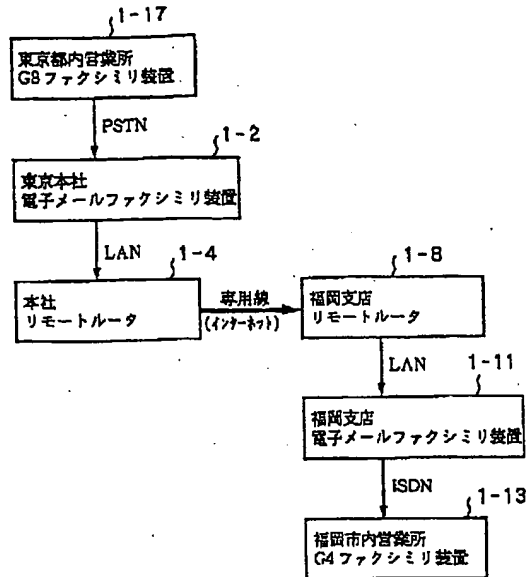


【図6】

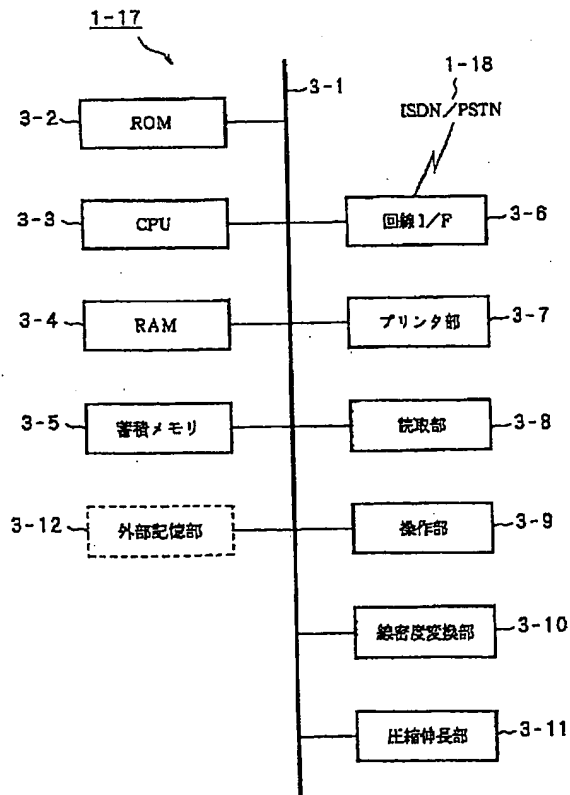


【図13】本実施の形態の第2中継局電子メールファクシミリの動作手順例を示したフローチャートである。

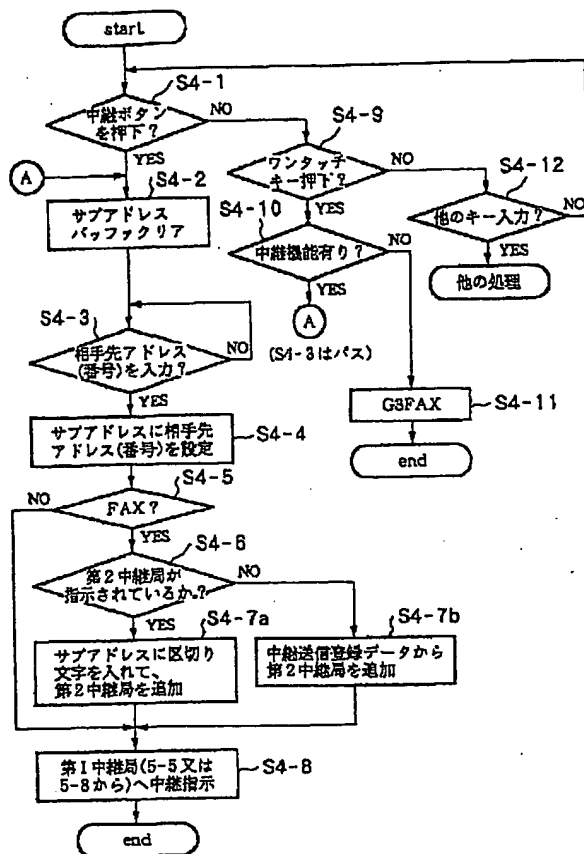
【図2】



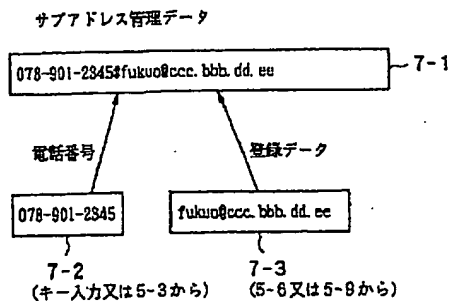
【図3】



【図4】



【図7】

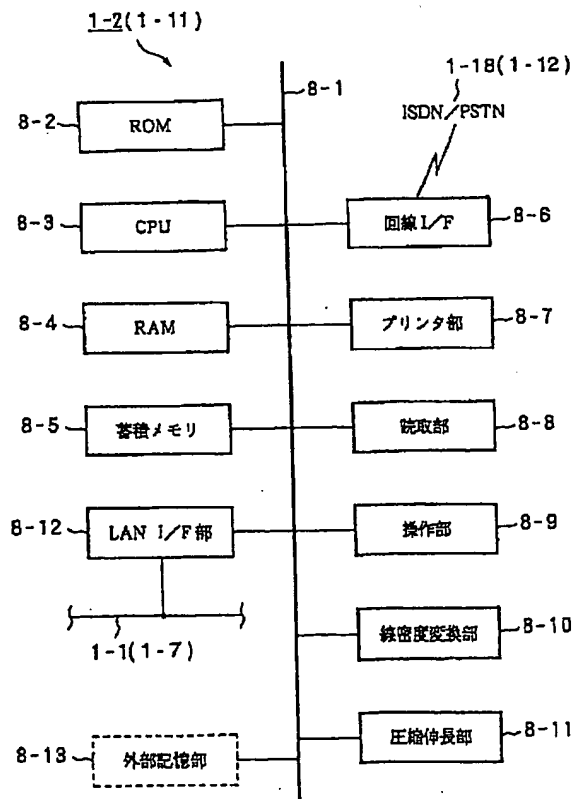


【図5】

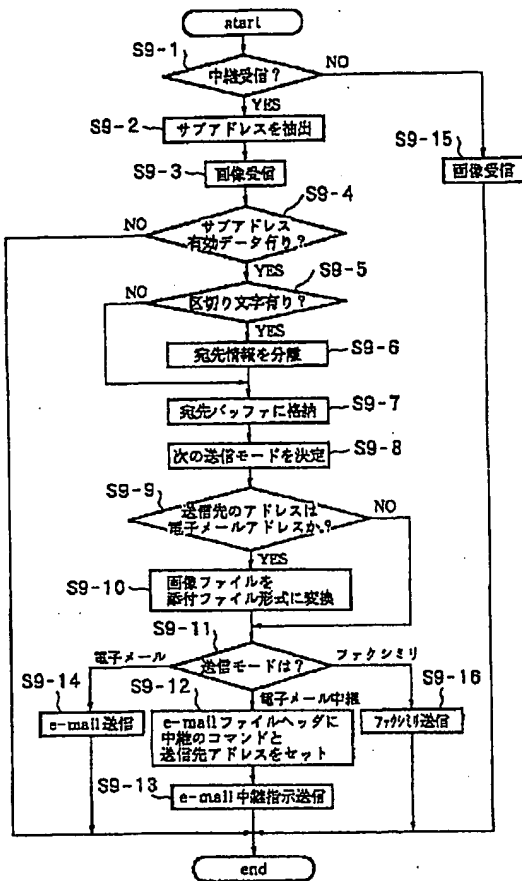
電話番号管理データ		5-1
No. 1	Name: Can福岡A	5-2
	Tel No: 078-901-2345	5-3
	TX mode: 電子メール中継送信	5-4
	Relay address: 03-4567-8901	5-5
	No. 2 Relay address: fukuo@ccc.bbb.dd.ee	5-6
No. 2	Name: Can東京B	
	Tel No: 03-4567-8901	
	TX mode: ファクシミリ送信	
No. 3		

中継送信登録データ		5-7
07X	Relay address: 03-4567-8901	5-8
	No. 2 Relay address: fukuo@ccc.bbb.dd.ee	5-9
01X	Relay address:	

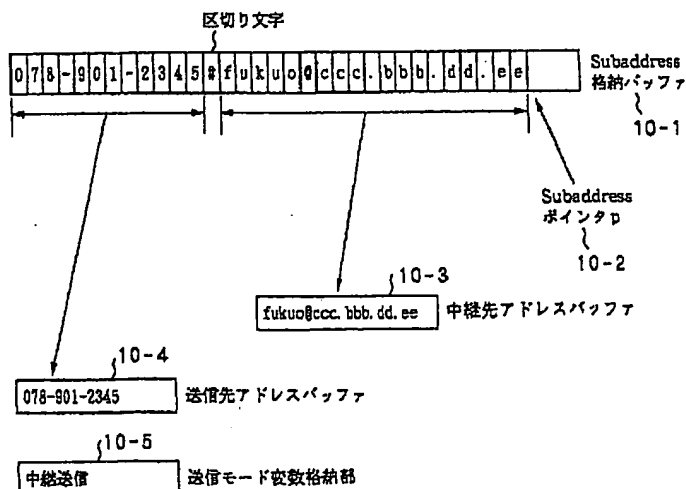
【図8】



【図9】



【図10】



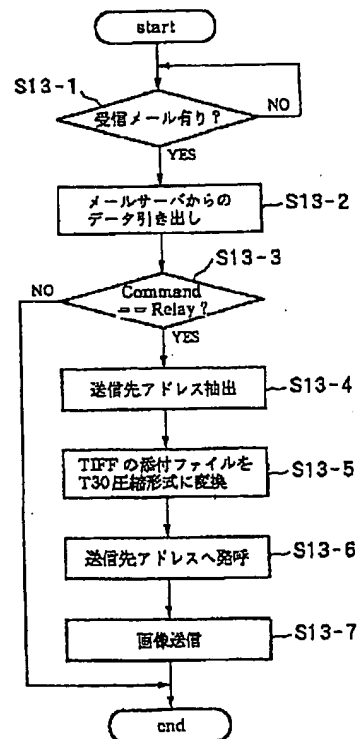
【図11】

Date : 26 Aug 78 1430 EDT
 From : P.J. CROSS<tokyo@aaa.bbb.co.jp>
 Sender : tokyo@aaa.bbb.co.jp
 To : fukuo@ccc.bbb.co.jp
 Message-ID: <some.string@SHOST>

MIME-Version: 1.0

Content-Type: Multipart/mixed; charset=ISO-2022-jp; boundary=[command]
 command =none
 option =fax cover sheet type a
 Password =*****
 [end of command]

【図13】



【図12】

Date	:26 Aug 78 1430 EDT
From	:P. J. CROSS<tokyo@aaa.bbb.co.jp>
Sender	:tokyo@aaa.bbb.co.jp
To	:fuku@ccc.bbb.co.jp
Message-ID	:<some.string@SHOST>

MIME-Version: 1.0	
Content-Type: Multipart/mixed; char-set=ISO-2022-jp; boundary=----	
[command]	
command =relay 078-901-2345	
option =fax cover sheet type a	
Password =*****	
[end of command]	

フロントページの続き

(51)Int.Cl. ⁶	識別記号	FI		
H 0 4 M 11/00	3 0 3	H 0 4 N 1/00		1 0 7 A
H 0 4 N 1/00	1 0 4		1/21	
	1 0 7	H 0 4 L 11/20		1 0 1 B
1/21				